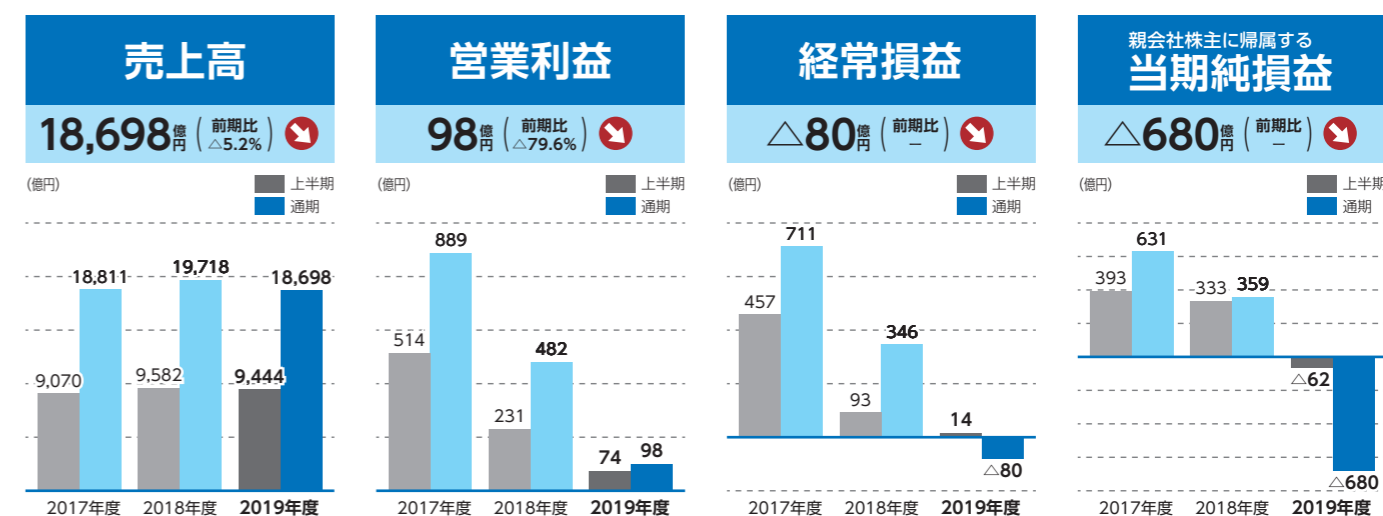


# 当期の概況

鋼材の販売数量は、米中貿易摩擦を背景に、海外の自動車向けを中心に需要が減少し、さらに期末にかけて新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたことから、前期を下回りました。アルミ圧延品の販売数量は、飲料用缶材向けの需要は前期並で推移したものの、自動車向けや半導体・IT向けの需要が減少したことから、前期を下回りました。銅圧延品の販売数量は、銅板条において自動車用端子や半導体向けの需要が減少したことや、銅管においても下期にかけて海外の需要が減少したことから、前期を下回りました。油圧ショベルの販売台数は、建設投資が堅調に推移した国内や、政府の景気刺激策によりインフラ投資が好調であった中国では増

加したものの、インフラ工事の延期の影響等により需要が減退した東南アジアをはじめ、海外での販売が前期を下回った結果、全体としては前期を下回りました。この結果、当期の売上高は、前期に比べ1,020億円減収の1兆8,698億円となり、営業利益は前期に比べ384億円減益の98億円、経常損益は前期に比べ427億円悪化の80億円の損失となりました。特別損益は、投資有価証券売却益を計上した一方、固定資産の減損損失や投資有価証券評価損を計上したことから574億円の損失となり、親会社株主に帰属する当期純損益は、前期に比べ1,039億円悪化の680億円の損失となりました。

# 業績ハイライト(連結)



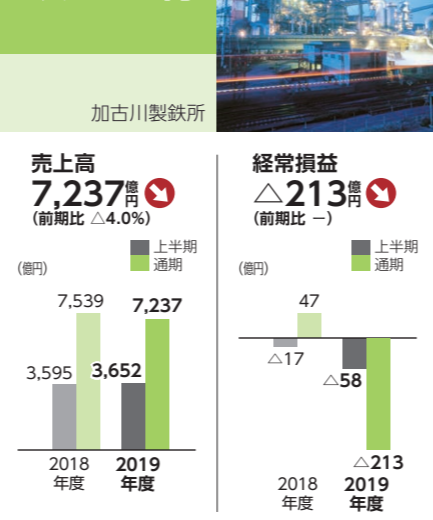
## 事業別売上高(2019年度)



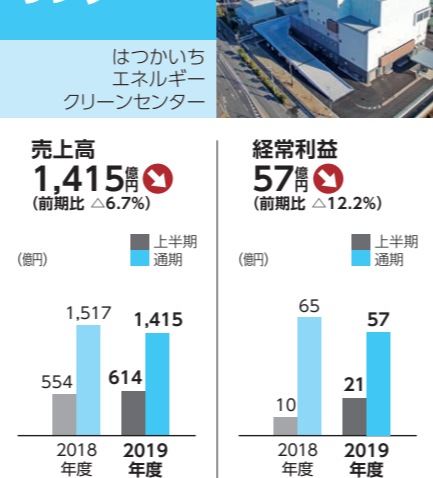
- 鉄鋼 ..... 38%
- 溶接 ..... 4%
- アルミ・銅 ..... 17%
- 機械 ..... 9%
- エンジニアリング ..... 7%
- 建設機械 ..... 19%
- 電力 ..... 4%
- その他 ..... 2%

(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額488億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額18,698億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。

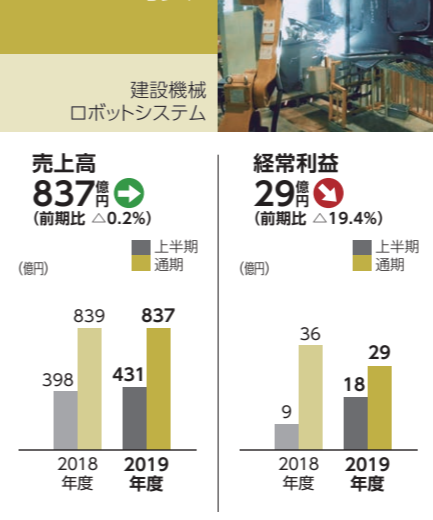
## 鉄鋼



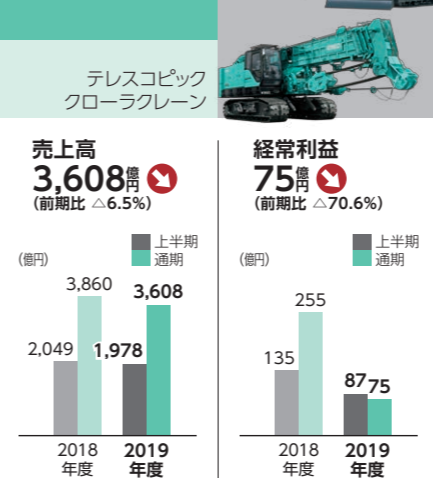
## エンジニアリング



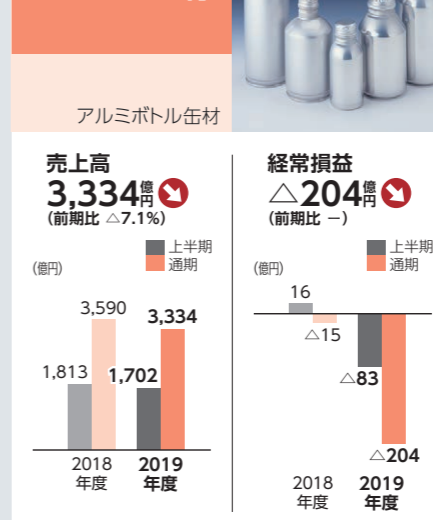
## 溶接



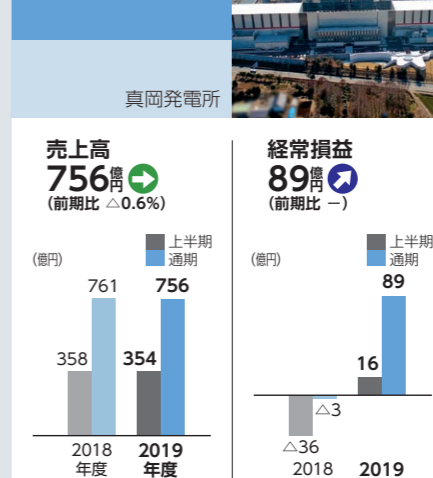
## 建設機械



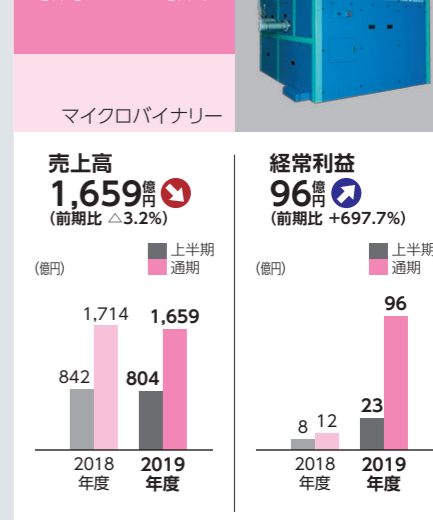
## アルミ・銅



## 電力



## 機械



## その他

